

〇 知事メッセージ

沖縄は独自の歴史・風土に根差した「沖縄らしいSDGs」を推進している。本県に深く根付く「ユイマール」の精神が、持続可能な社会を支える大きな力となっている。

初の「自発的ローカルレビュー（VLR）」で現状を可視化し、課題を施策に反映する。

戦後80年や首里城復元を節目に、平和を次世代へ繋ぎ、誰もが幸福を実感できる持続可能な「美ら島」の実現へ歩みを進める。

〇 ハイライト

① ユイマール×人間

「こどもまんなか社会」の実現を最優先に掲げ、貧困対策や「こどもの居場所」づくりを推進。多様性尊重では「美ら島にじいろ宣言」や多文化共生を進め、「イチャリバチョーデー」の心で誰もが自分らしく輝ける社会を目指す。

② ユイマール×繁栄

観光を「量から質」へ転換する全国初の「サステナブルツーリズム宣言」を発出。産業DXやスタートアップ支援で「稼ぐ力」を強化し、雇用の質の改善と連動させることで、県民が豊かさを実感できる経済社会の実現を推進する。

③ ユイマール×地球

外来種対策や赤土流出防止などの環境政策を地域住民との協働により推進。2050年の脱炭素に向け再生可能エネルギー導入を加速し、災害に強く低炭素な「島しょ型エネルギー社会」構築を住民と共に目指す。

④ ユイマール×平和

戦後80年を迎え、「命どう宝」や「ユイマール」の精神を次世代へ継承し世界へ発信。2026年の首里城復元を機に、先人の「万国津梁」の精神を礎として、国際社会と共に恒久平和の実現へ貢献していく。

⑤ ユイマール×パートナーシップ

世界の県系人ネットワークを財産に、地域外交や文化継承を推進。パラオやハワイとの連携など、島しょ県特有の知見を国際社会と共有し、多角的なパートナーシップで世界の持続可能な発展に貢献。

第1章 インTRODクシヨN

(1) 地理的・自然的特性

日本唯一の島しょ県。万国津梁として栄え、今なお多文化を繋ぐ交流の地。生物多様性に富んだ豊かな自然環境が広がっている。

(2) 歴史的・文化的特性

長い歴史の中で世界に誇れる独自の文化が形成された。米軍統治を経て、今なお国内の米軍専用施設の約7割が集中し、土地利用上の大きな課題。

(3) 経済的・社会的特性

人口約146万人で微減傾向にある。経済は物価高の影響を受けつつも、好調な観光需要を背景に拡大基調。第三次産業が約87%を占める産業構造が特徴的。

(4) 沖縄らしいSDGsの基本理念

平和を求めて時代を切り拓き、世界と交流し、ともに支え合い、誰一人取り残さない、持続可能な『美ら島』おきなわの実現

(5) 優先課題

沖縄の特殊事情を踏まえて12の優先課題を設定。「おきなわアクションプラン」で推進目標とモニタリング指標を設定。

(6) SDGs実現に向けて

2019年のSDGs推進宣言を起点に推進本部の設置等の体制を整備し、2021年に未来都市に選定。実施指針やアクションプランを策定し、2022年プラットフォームを創設。2023年に認証制度開始、2024年には全国フォーラムを開催し、「沖縄らしいSDGs」を全国に発信。



第2章 レビュウの方法とプロセス

(1) VLR作成の経緯

VLRで、県内のSDGsの総括、客観的な強みや課題を整理し、取組の強化や新たな国際ネットワーク創出につなげる。地域全体のSDGs推進の底上げに寄与。

(2) これまでのアクションプランのモニタリング

2023年から県内の取組状況をモニタリングするため、17のゴールごと、おきなわSDGsアクションプランの指標のモニタリングを実施。

(3) VLRにおけるレビュー手法

これまでのモニタリング手法を踏襲しつつ、国際的な枠組みに整理し、沖縄の特性・課題を反映した分析を実施。

第3章 政策及び実現を可能にする環境

県では2022年度から2031年度の振興計画である「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」にSDGsを取り入れ、総合的に施策を展開。

○将来像1 沖縄らしい自然と歴史伝統、文化を大切にする島

低炭素で災害に強い島しょ型エネルギー社会を目指す。首里城復興の推進、空手発祥の地・沖縄の発信。独自の自然と文化の魅力を発信。

○将来像2 心豊かで安全・安心に暮らせる島

健康長寿の推進、地域防災力の強化、犯罪防止や交通安全対策の徹底により、県民の安心と健やかな暮らしを支える。

○将来像3 希望と活力にあふれる豊かな島

国際物流拠点・スポーツ交流拠点形成を目指す。OISTでの最先端研究、起業支援の加速化による産業創出。サステナブルツーリズム推進。

○将来像4 世界に開かれた交流と共生の島

地域外交の推進、「世界のウチナーンチュ」との絆を強化し、平和を希求する「沖縄のこころ」を発信し、国際社会の平和と発展に寄与。

○将来像5 多様な能力を発揮し、未来を拓く島

しまくとぅば普及、格差のない教育機会の確保に取り組む。持続的発展を支える人材を育成し、多様な価値を尊重する社会の実現を目指す。

○こどもまんなか社会の実現

こども貧困対策の推進、こどもの権利尊重・意見表明の環境を整備。

○ジェンダー平等の推進

ジェンダー平等への意識改革、ワークライフバランスの充実を図る。

○高齢者フレンドリー社会の構築

全ての高齢者が自分らしく安心して暮らせる社会の実現を推進。

○障がい者の社会参画

障がいのある人が自らの意思で望む生き方を実現できる社会を推進。

○多文化共生の推進

外国人住民が安心して地域社会に参画できる環境づくりを推進。

○米軍基地に起因する課題

基地負担軽減と安全な生活環境確保に向け、国等と連携し取り組む。

○駐留軍用地跡地の有効利用による県土構造の再編

国・市町村と連携し、跡地整備を円滑かつ確実に推進。

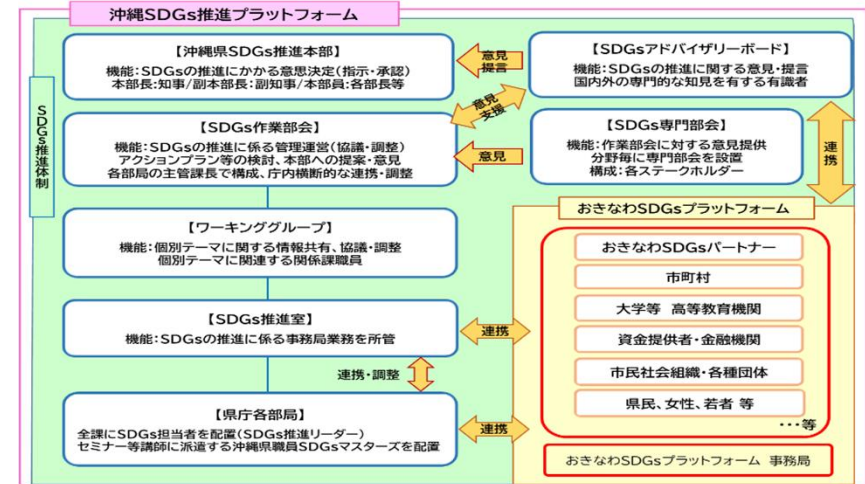
○沖縄の離島における条件不利性に起因する課題

離島の定住条件整備、持続可能な行政サービス提供、産業振興を推進。

○海洋島しょ圏をつなぐ交通ネットワークに関する課題

渋滞解消や、誰もが安全・安心に移動できる交通環境の実現を目指す。

SDGs推進の体制・取組



○おきなわSDGsプラットフォーム

県内でSDGsに取り組む企業・団体、個人等の情報共有や交流・連携の場。ポータルサイトでの情報発信、交流会・セミナー等の開催、コーディネータの設置（2026年3月時点 1,900会員）



○おきなわSDGsパートナー登録制度

SDGsを推進する県内企業・団体の取組の見える化、参画促進を図る制度（2026年3月時点 1,048団体）



○おきなわSDGs認証制度

SDGsの理念を尊重し、経済・社会・環境を意識した経営を実践する県内企業・団体を認証（2026年3月時点 27団体）



○プロジェクトチーム

プラットフォーム会員が連携して社会課題解決を目指すプロジェクトチームの支援（2026年3月時点 8チーム）

○理解促進と多様な主体の参画

SDGsの普及と実践を推進するため、若者向けワークショップ、参加型イベント「みんなでSDGs」、おきなわSDGsフェスタ2025を開催



沖縄県自発的自治体レビュー（VLR）概要

第4章 ゴールとターゲットの到達状況

(1)「おきなわSDGsアクションプラン」のモニタリング

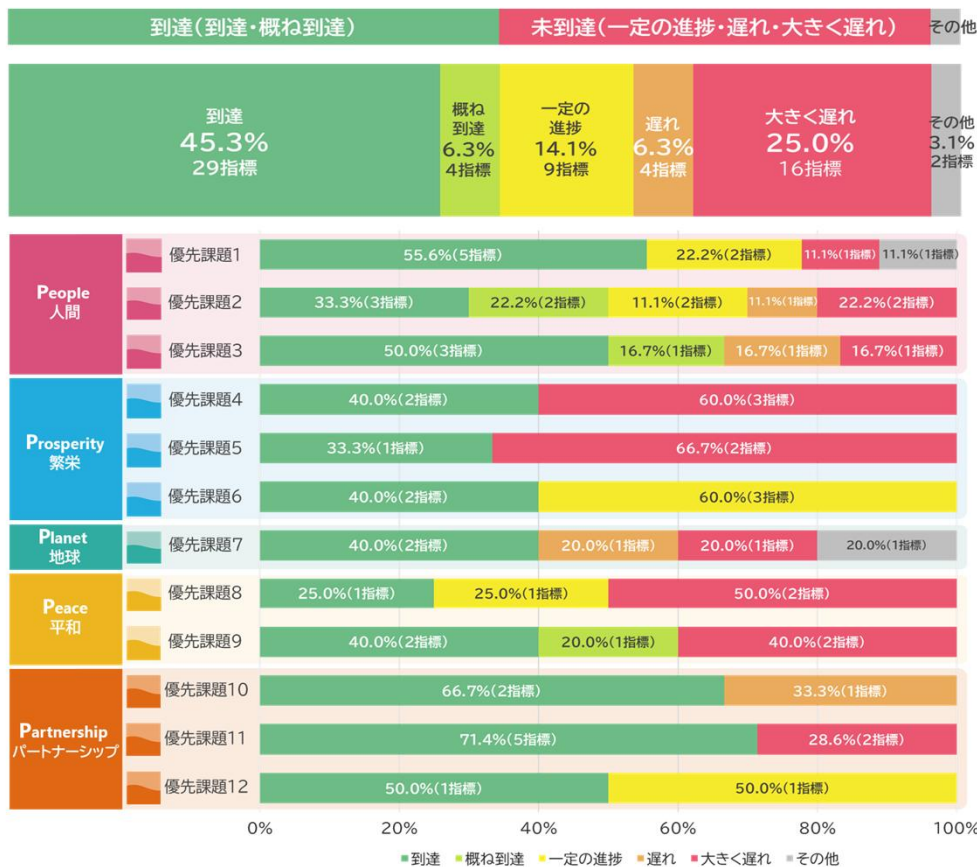
「おきなわSDGsアクションプラン」では、12の優先課題ごとに「推進目標」と実現に「向けたアクション」を、また目標のモニタリングを行うために、ローカル指標、基準値、目標値を設定している。

各ローカル指標は、基準値に対する変化率だけでなく、目標値に対する到達度を算出し、進捗具合を別視点で評価。

優先課題1, 3, 10, 11, 12では、半数以上のローカル指標が目標を到達しており、取組推進が表れている。
一方、優先課題4, 5, 8は進捗が遅れている指標が多く、課題が残っている。

○到達度で見るとの全体の状況

$$\text{到達度}(\%) = (\text{現状値} - \text{基準値}) / (\text{目標値} - \text{基準値}) \times 100$$



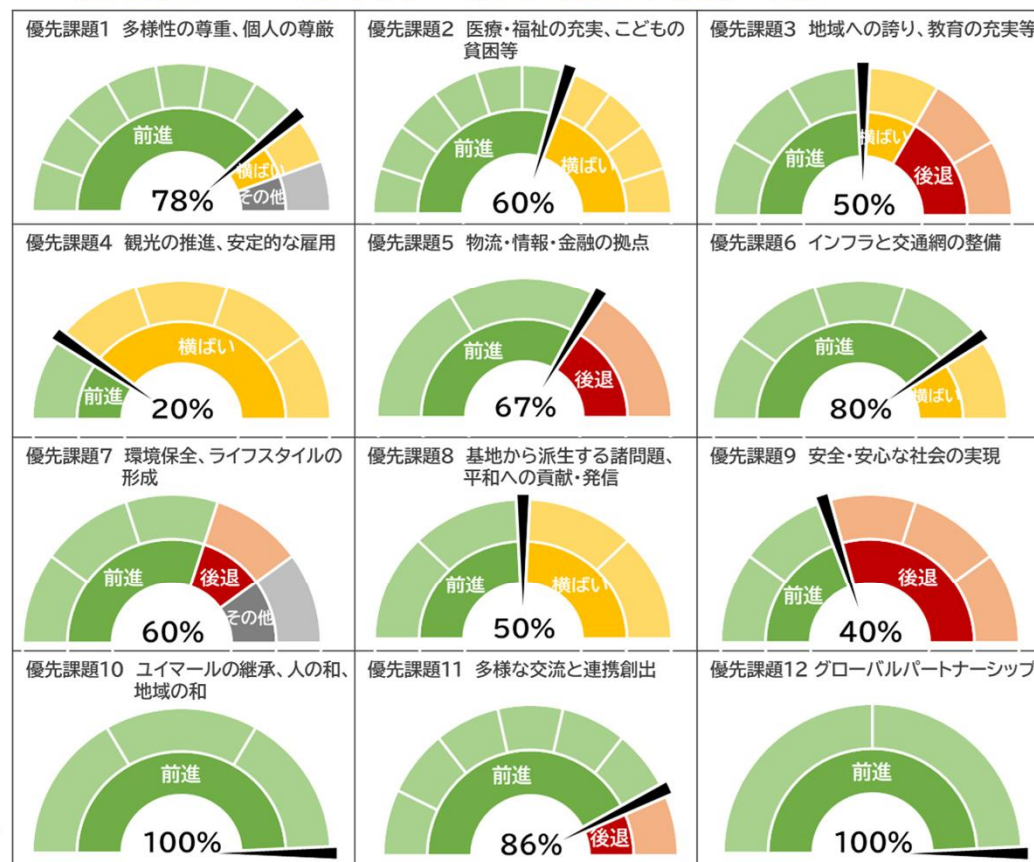
○変化率で見るとの全体の状況

$$\text{変化率}(\%) = (\text{現状値} - \text{基準値}) / (\text{基準値}) \times 100$$

評価	「変化率」の評価基準
前進	基準値と比較した現状値の変化率が小数第二位で四捨五入した結果が+5.0%以上(前進の方向を+として評価)
横ばい	基準値と比較した現状値の変化率が小数第二位で四捨五入した結果が-5.0%より大きく5.0%未満
後退	基準値と比較した現状値の変化率が小数第二位で四捨五入した結果が-5.0%以下(後退の方向を-として評価)

「SDGs推進の目標」項目数	ローカル指標数	進捗状況(対基準値)				特記事項
		前進	横ばい	後退	その他	
39項目	64項目	41項目 (64.1%)	13項目 (20.3%)	8項目 (12.5%)	2項目 (3.1%)	その他指標とは、基準値取得以降データ未更新の指標等。

12の優先課題ごとの進捗状況 ※数値は前進した指標の割合



(2)17のゴールごとのモニタリング

17のゴールごとの指標は、基準値と現状値の変化率を三段階で評価する。現状値・基準値が公表されていない場合「その他」とする。

$$\text{変化率(\%)} = (\text{現状値} - \text{基準値}) / (\text{基準値}) \times 100$$

評価	変化率の評価基準
前進	基準値と比較した現状値の変化率が小数第二位で四捨五入した結果が+5.0%以上(前進の方向を+として評価)
横ばい	基準値と比較した現状値の変化率が小数第二位で四捨五入した結果が-5.0%より大きく5.0%未満
後退	基準値と比較した現状値の変化率が小数第二位で四捨五入した結果が-5.0%以下(後退の方向を-として評価)

全国値との比較が可能な指標は、以下の評価基準で表示

評価	「全国水準」の評価基準
到達	全国値に到達している指標
未到達	全国値に未到達な指標

①People【人間】（ゴール1・2・3・4・5・6）

ゴール4から教育環境の整備が着実な成果が見られる。一方で、ゴール1や、ゴール2に課題が残り、こどもの貧困対策や福祉・保健の更なる強化が喫緊の課題である。

②Prosperity【繁栄】（ゴール7・8・9・10・11）

ゴール8の改善や、観光収入の大幅な回復で地域経済の活性化が進んでいる。課題として、労働生産性や1人当たり県民所得は全国水準を大幅に下回っており、稼ぐ力のさらなる向上が求められる。

③Planet【地球】（ゴール12・13・14・15）

ゴール13で気候変動対策の進展、ゴール14で海洋環境保護に成果を上げている。一方で、ゴール12やゴール15では課題が見られ、循環型社会の構築に向けたさらなる取組の強化が必要。

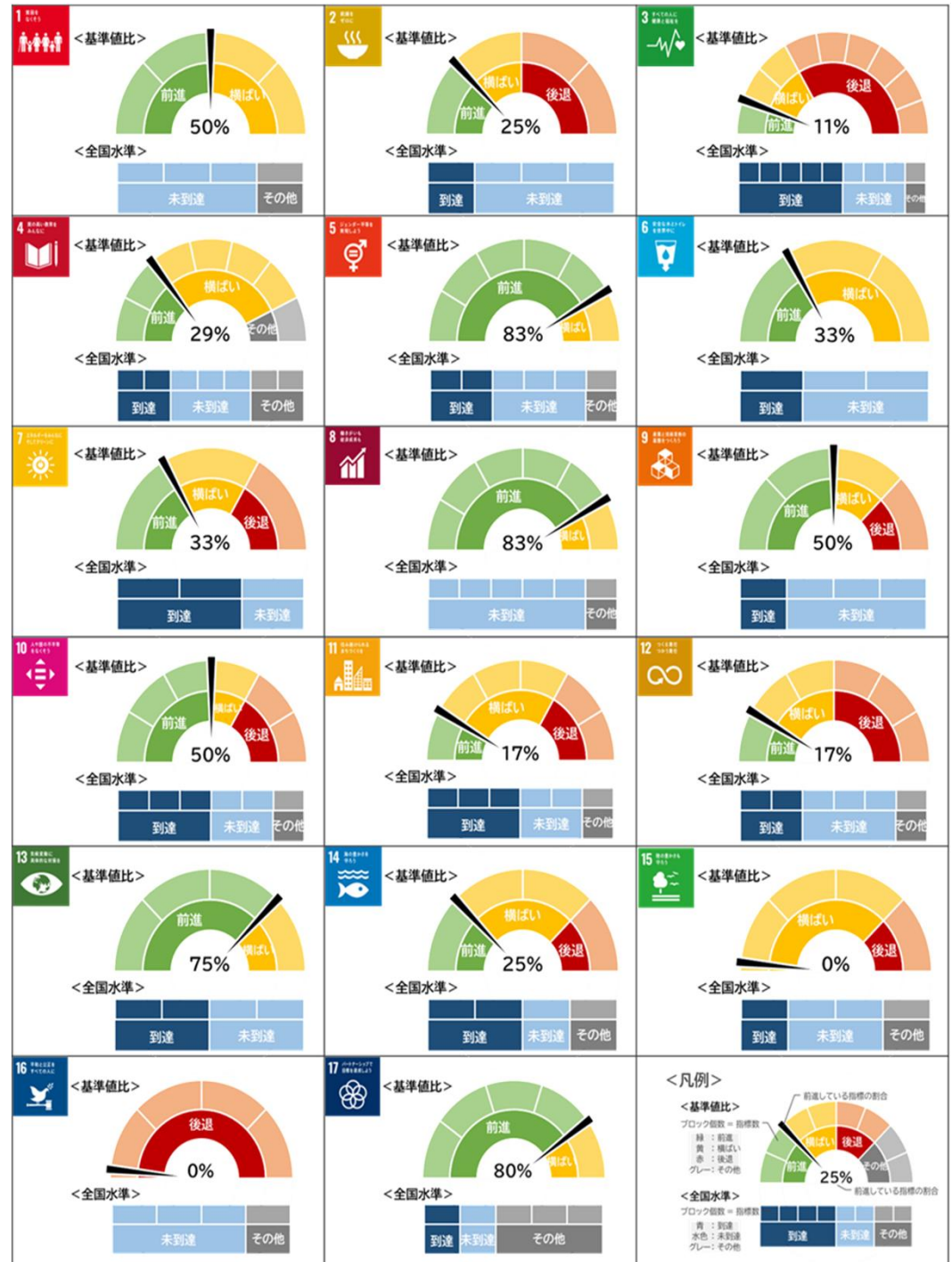
④Peace【平和】（ゴール16）

ゴール16では依然として多くの課題に直面。これらの課題に、犯罪抑止の徹底や教育現場における安全確保の強化、関係機関が緊密に連携した包摂的な支援体制構築が必要。

⑤Partnership【パートナーシップ】（ゴール17）

SDGsを推進する土台となるパートナーシップは、最も顕著に伸長。行政・民間・市民社会が一体となったSDGsの達成に向けた取組や推進体制が確立されつつある。

17のゴールごとの基準値比、全国水準との比較 ※数値は前進した指標の割合



第5章 結論と次のステップ

1 レビューの総括(これまでの歩みと評価の総括)

- ・2019年の知事の「SDGs推進宣言」を起点に全県的な推進体制を構築。
- ・2021年5月、国の「SDGs未来都市に」選定され、持続可能な「沖縄らしいSDGsの実現を掲げ取組を本格化。
- ・2022年に多様な主体が情報発信や連携を図る場として、「おきなわSDGsプラットフォーム」を創設し、SDGsを自分ごととして捉え、活動を展開する基盤が整う。
- ・県民のSDGs認知度は、2020年の33.4%から2025年には89.6%へ上昇
- ・おきなわSDGsパートナー登録・認証制度による活動の可視化や「全国フォーラム2024」による情報発信、若者の参画による取組が認知度向上を後押ししている。
- ・本VLRは専門部会やアドバイザリーボード等のステークホルダーや有識者が参画し、透明性と客観性を担保したプロセスで実施。
- ・12の優先課題のうち、パートナーシップの分野が最も高い到達率を示しており、優先課題10、12で「前進」が100%に達し、ユイマールの精神が根付いていることが明らかになった。
- ・全64のローカル指標のうち、前向きな進展が見られた指標は全体の約6割(41項目)で、一定の成果が確認された。
- ・優先課題2、8では、到達度で課題があるが、進捗では半数以上の指標で「前進」が見られ、厳しい状況下でも着実な改善が見られる。
- ・観光や情報産業通信分野の着実な進展、スタートアップ創出や産業DXが加速し、県内総生産や観光収入も過去最高を更新し好調。一方、「持続可能な観光」への実感が目標より下回り、「量から質への転換」が急務で、「サステナブルツーリズム宣言」による取組を推進。
- ・県民所得向上、こどもの貧困対策、人口減少、物価高騰といった課題が山積。DXによる稼ぐ力の向上、体験交流の格差是正、外国人材受入れ環境整備で、人口減少でも持続可能な社会づくりが必要。
- ・国際社会と共に、豊かな自然環境の保全、気候変動対策、平和を希求する取組を推進。
- ・本VLRで明らかになった課題は、次期アクションプランに反映、実効性の高い施策展開に繋げる。

2 次のステップ

(沖縄らしいSDGsの再確認・今後の取組に向けた決意)

- ・今回のVLRで再確認した「命どう宝」は、苦難の歴史を歩んできた沖縄にとって重んずべき信念。争いのない平和な世界を切望。
- ・2025年、沖縄戦終結から80年の節目。戦後90年、100年を見据え、アジア・太平洋地域の平和構築に貢献する国際平和創造拠点として、沖縄戦の実相と教訓を次世代に継承し、平和を希求する「沖縄のこころ」の発信強化のため「国際平和研究所(仮称)」の創設などに取り組み、世界の恒久平和に貢献する。
- ・2026年は首里城復元を迎え、先人から受け継いだ「万国津梁」の精神で、世界のウチナーンチュ等の独自の国際ネットワークや、島しょ地域ならではの知見や経験を生かし、多様性を認め合う社会の構築や世界の持続可能的な発展に貢献する。
- ・「残すべき沖縄らしさ(継承)」を次世代に繋ぎ、「変えていくべき沖縄(変革)」への挑戦も止めることなく、両立を図り推進していく。
- ・SDGsの先の未来を見据え、長期的なビジョンの議論を進める。未来を描くプロセスでは、県民、企業・団体、行政といったあらゆる主体の参画を促し、対話を重ねる。その際、本VLRを対話の基盤として活用し、現状と課題を共有し議論を深める。
- ・長期ビジョンの対話のメンバーとして、若者をしっかり組み込み、意見表明ができる場を創出する。こうしたプロセスで、人材育成と教育の機会、地域全体の成長につなげる。次世代の若者の感性と発想をビジョンに反映させ、共に描く。
- ・沖縄らしいSDGsの基本理念を道しるべに、誰もが輝き、誰もが尊重され、幸福が真に実感できる沖縄を、県民とともに築き上げる。

